

# 経口第3世代セフェム系抗菌薬の使用量

● 説明

経口第3世代セフェム系抗菌薬は、バイオアベイラビリティ(投与された薬物がどれだけ全身循環血中に到達し作用するか)が非常に低いことが知られています。また、抗菌薬の不適切な使用は薬剤耐性菌の増加につながります。経口第3世代セフェム系抗菌薬の使用量を削減することは、抗菌薬を適正に使用していることを表します。

● 計算式

$$QI = \frac{\text{経口第3世代セフェム系抗菌薬を使用した患者の延べ日数}}{\text{入院または通院患者の延べ日数}} \times 1000$$

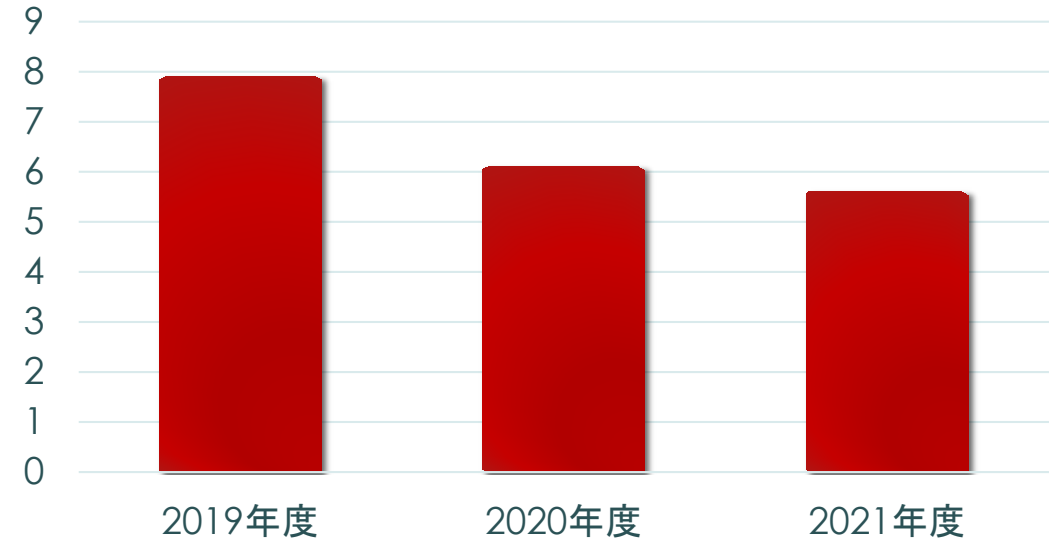
● 目標

当院は、2018年1月に経口第3世代セフェム系抗菌薬の院内採用を中止しました。2018年度からの院内使用量はゼロであり今年度も維持していきます。院外での使用もこれまでと比べて増えることがないよう努めていきます。

● 計画

講義や会議を通じて、経口抗菌薬の適正使用の周知を行ってまいります。

● 実績



● 評価

厚生労働省が2016年に策定した『薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン』では、「経口セファロスポリの使用量を2013年度比で2020年までに半減すること」が目標として定められています。全国の販売量調査では、2020年における経口第3世代セフェムの販売量は、2013年比で52%まで低下しています。当院での使用量については、入院患者では、0%、外来患者でも11%まで低下しており、使用量減少が達成できています。